

大好きな野球

一宮東部小・6 東元 太郎

「フライいくぞう。」

コーチが言った。ぼくは、

「お願いしませう。」

とさげんだ。高い球がぐんぐんせまってくる。球の方向とスピードを見定めて走る。ボールは、高く上げたグローブにバシツと入った。

「ナイス。」

と、コーチが言う。ぼくはうれしくなって、次もとってやろうと思う。

ぼくは、守備練習が好きだ。たくさん走るから苦手に思っている子もいるけれど、ぼくは苦にならない。

「球を追いかけているだけで、楽しいんだね。」

と、母が言う。犬みたいな言われようでちよつとむかつとするが、本当にそうだ。ぼくは、野球が大好きだ。

ぼくは、四年のときから少年野球の体験コースに入っている。月に二回、午前中いっぱいを使って練習する。体着で参加してもよいのだけれども、ぼくは気分を味わいたくて、野球の服を買った。なんと、自分のお金で。習い事でこんなことをするのは初めてだ。コーチに話したらほめてもらえて、ますます野球に行くのが楽しくなった。

ぼくが、野球に興味をもったきっかけは、ラジオの実きよう中け

いを聞いたことだ。アナウンサーの言っていることはあまり分からなかったけれど、何だかおもしろそうだなと思った。何より、パワーを感じた。ぼくは、もっと野球について知りたくなった。プロ野球名かんを買って、選手の名前や顔を覚えた。知っている選手が試合に出てくると、わくわくした。試合を見ていて、いろいろな投げ方や打ち方があることを知った。ぼくは友達といっしょに、それを真似してみた。最初は難しかったけれど、だんだんとできるようになった。フォームの真似ができると、友達と選手の当てっこゲームができて楽しめた。

野球の練習日が少ないので、近所の神社に集まって子どもだけで野球をやることもある。人数が少ないので、多くのポジションがけずられることになる。キャッチャーはいなくて、ファーストは「木」だ。セカンド、ショート、サードは一人で受け持つ。外野は、たいてい内野の仕事だ。こんな布じんだが、けっこううまくまわっている。適当な応援歌を作り、打席に立つ人を盛り上げる。今は日が長いから、五時半まで遊べるのがうれしい。

野球に関連した楽しみとして、ゲームやカード付きおかしがある。自分の球団を作って遊べるゲームは、選手や球の動きがともりアルで、本当の試合を見ているようで夢中になる。夢中になり過ぎて、勉強時間がなくなり、しかられることもある。勉強とのバランスをうまく取ることが、今後の課題である。

カード付きおかしは、野球小ぞうの夢と期待にあふれている。小ぶくろの中には、野球選手のカードが二枚入っている。だれのカードが入っているかは、開けてみなければ分からない。同じ選手のカードが、五枚もたまってしまう不幸もある。でもごくまれに、お気

に入り選手のサイン入りが出ることもある。そのときの喜びが忘れられず、子どもたちは、またカード付きおかしを買うのだ。

今年の夏休みは、すばらしい体験をした。球場めぐりをしたのだ。最初に行ったのは阪神こう子園球場。乗りつぎがよく、思ったよりスムーズに行けた。テレビで見る試合が、この中で行われているかと思うと、むねが高鳴った。すごく暑い日だったので、中に入らず外から見ただけだが、ふん囲気が分かって良かった。

次に行ったのは、バンテリンドームナゴヤだ。月曜日なので試合はなかったし、雨も降ってきた。でもどうしてもドームを見たくて、大ぞ根駅からがんばって歩いた。やっとたどりついたドームは、カーテンが閉まっただけで中の様子が分からず残念だった。ドームの柱には、大きな個人ポスターがはってあったので、好きな選手のところに行って写真をとってもらった。

コロナかで、密になる球場内での観戦はまだ難しい。安全面を考えると、しばらくはテレビ観戦が続きそうだ。ますます野球が好きになっていくにはつらいことだが、状況ようにあった関わりを続けていきたい。